森林環境教育（森林ＥＳＤ）プログラム分析シート

団体名：　特定非営利活動法人　キッピーフレンズ

プログラム名：	ＮＰＯ法人キッピーフレンズが行っている環境体験学習について
プログラムの目標	兵庫県が県下の全小学校３年生に対して行っている環境体験学習要項に基ずき①命の大切さ、つながりを知る、②自然の美しさに感動する豊かな心を持つ、③自然観察、農業体験等を行う、④五感を使って学び、体験する、⑤先生以外の人々や専門家から直接学ぶ、⑥学校を離れる等の目標を持って行っています。
プログラムの概要	１、自然観察（引率型、オリエンテーリング型） ２、森のお掃除（森林整備） ３、工作（森で得られる自然材料を使った工作） ４、拡大スクリーン（顕微鏡、拡大ルーペの映像をスクリーに拡大する） ５、水辺の生き物調査 ６、学習センター展示室等の案内・解説 等を学校側の要請、時間、生徒数、既に実施した環境体験学習の内容等を考慮して先生と打合せを行い決めている。

プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
	自然観察探検シートの作成	
	自然観察のポイントになる６カ所程度の質問型探検シートの作成し、生徒に持たせて簡単に感じたこと、新しい発見、驚いたこと等を記入させる。	スタッフからの一方的な説明、案内にならないように、生徒が自ら考え、発想し、疑問点を引き出すようにしている。
2	自然観察	
	公園に設置されているキツネの巣の模型、温度計等を活用するとともに、季節の移り変わりが分かる観察か所、学校の要請事項等を考えてポイントを選定して探検シートを作成する。	探検シートには必ず「驚いたこと、新しく発見したこと」等を記入できるようにしている。観察後のふりかえりの時間に生徒代表による発表を行っている。なお、可能な限り五感で学び体験できるようなポイントを選定するように心がけている。
1	工作	
	森から得られる小枝、木の実等の自然材料でネームプレート、森のくまさん、もっくん等の簡単な工作を行う。	自然材料を有効に使うことにより、森の楽しみ、面白さを体験させる。なお、団体学習のため危険なナイフや鋸は使用していない。
1	森のお掃除	
	里山整備（森林整備）を体験したいとの学校からの要請により、小学生3年生には本格的な里山作りは難しく危険が伴うので、登山路（車道）沿いの森林の草刈（主としてササ）と枯れ木の林外持ち出しを体験させている。	草刈り、枯木の持ち出し後に森林が明るくなり、きれいになったことを生徒に説明して、花の咲く木や昆虫が増えることを教える。また、登山、ハイキングにくる人々が明るくなった森を見て、ほっとする様子を伝える。

森林環境教育の視点	1　感性的経験	感性的な内容－森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など
	2　自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容－植物や動物の生態など
	3　多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容－森林の働き、保安林など
	4　現状・課題	森林の現状に関する内容－森林の荒廃、人手不足など
	5　管理・維持	森林の管理・維持に関する内容－森林整備、育成、維持、管理など
	6　歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史－その土地での歴史、薪炭林、炭焼き

項目番号	活動の分析（森林環境教育の視点）　上位３項目
1 感性的	この学習の最大の目的は兵庫県では過去に悲しい事件が発生したことを契機に、自然の中に入り、自然体験を経験することにより自然に対する畏敬の念、命の大切さ・命のつながり、美しさに感動する豊かな心を持たせる。
2 自然的	森林内に設置されているキツネの巣の模型、温度計等の施設を有効活用するとともに、樹木、昆虫や小動物の生態を観察するとともに、グミ類の実の試食、クサキの葉の匂いをかかせる等出来るだけ五感を働かせるように学び体験する。また、大きな池に渡来するカモに係わり、カモの習性、渡り鳥、エサやりの禁止等について解説し、野生動物の保護について学ぶ。
3 多面的	森林の中にある大きな池（福島大池）の水はどこから来るのか、この水は何に使われているのか、人工林はどのようにして作られたのか等を指導し、森林と人とのかかわりについて学ぶ。

ＥＳＤの要素 （生きる力）	能力	1　批判的に考える力	態度	5　他者と協力する態度
		2　未来像を予測して計画をたてる力		6　つながりを尊重する態度
		3　多面的、総合的に考える力		7　進んで参加する態度
		4　コミュニケーションを行う力		

項目番号	活動の分析（能力・態度の視点）　上位３項目と実施後の変化
3 多面的	福島大池の水は、下流の農地を潤して豊な農産物の収穫、美味しいお米や野菜を人々に供給していることを伝え、森や水の大切さを学び体験する。
4 コミュニケーション 5 協力	自然観察の一つとしてオリエンテーリング型の自然観察を取り入れているが、10名程度の生徒の班を作り、地図と探検シートを持って、班長が中心になり、班員全員でポイントを探し、待機しているスタッフの案内を聞き、さらに次のポイントを探して移動する。この自然観察は班員が相談しながらポイントを探すコミュニケーションと弱い友を助けながら歩くこと等の協力心を育てることにつながっている。また、班長が班員の意見をまとめる能力を育てる。
実施後、参加者の変化	有馬富士公園の自然を学び体験することにより、小さな虫から大きな樹木すべてが命を持ち、一生懸命生きていること、さらに自分たちの住んでいる街や学校付近の自然と有馬富士公園の自然の違い知り、街の小さな命、自然でも大切にする心が育てられていると考えます。 また、森は人だけで無く、多くの生物のために大事にして保護しなければならないこと学んでもらっていると思います。

学習指導要領との関連　（上位３項目）		
教科	項目	学習内容
社会 ３年	農業用水を知る	有馬富士公園の森林の中にある福島大池の水は、周辺の森から集まった水で、森の水源涵養機能を学ぶ。また、この水が下流の農業用水に利用されていることを学び、森林、水の大切さを学ぶ。
理科 ３年	自然（森林）観察	自然・森の大切さ、面白さ、不思議さ、厳しさを学び、命の大切さ、繋がりを体験させる。
図工 ３年	工作	森から得られる木の実、葉っぱ、小枝等の自然材料を用いて、簡単な工作を行い、森の楽しさ、創作の面白さを体験させる。

プログラムでの学校との連携（取組内容）

教員との打ち合わせで自然観察の内容、工作の種類、生徒の障害・アレルギーの程度等の健康状況を聞くと共に観察ルートの下見を必ず行い、観察ポイントの確認、安全確認等を行う。また、既に実施した環境体験学習の内容を聞き、観察内容等との調整を図っている。

プログラムでの地域との連携（取組内容）

県立公園内で行っているので地域との連携は特にありませんが、公園内で活動している他の団体や学習センターの職員等とは必要に応じて連携活動に取り組んでいます。

プログラムの今後のめざす方向・展開

命の大切さ・つながりを伝えるために、自然観察ポイント選定の工夫や充実、スタッフのスキルアップ、公園施設担当者との意志疎通を図り、この環境体験学習実施の効果をさらに高めていきたい。

現状での課題など

３年生の生徒が１００名を超える規模の大きい学校の環境体験学習の場合、１０名を超えるスタッフが必要であり、スタッフの自然、森林等に関する知識や案内能力の向上、同じレベルとなることが必要であり、森林インストラクター、自然観察指導員等を講師として研修会や実習会を開催し、スキルアップを図っています。
また、公園に設置されているキツネの巣の模型等に観察ポイントとして頼り過ぎている傾向があり、生徒がより森に親しみを持ち、季節に応じた観察ポイント等の掘り起しが必要となっています。

質問事項、知りたい情報など